

教団新報

定 価 1 部 140 円 (本 体 133 円 千 共 200 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円
紙 代 の み 3,500 円
振 替 00140-9-145275
本 紙 を 購 読 ご 希 望 の 方 は 、 前 金 を
そ へ て 、 お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店
へ お 申 し 込 み 下 さ い 。
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す 。

発 行 所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18
日 本 キ リ ス ト 教 会 館 内 電 話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発 行 人 内 藤 留 幸
編 集 主 筆 竹 澤 知 代 志
印 刷 所 株 式 会 社 き か ん し



六本木、東洋英和女学院に隣接した鳥居坂教会

宣教方策会議開催される

伝道協力における一致と再建の進路を求め

伝道と伝道協力、共通理解と協働を求めて

六本木にほど近い鳥居坂教会を会場に、宣教方策会議が開催された。張田眞牧師によれば、六本木は最先端で高級イメージの都市再開発地域、経済成長期に発展した朝まで続く喧噪地域、そこは人種の垣塙、昔の良き時代を偲ばせる緑の残る教育・文化ゾーン、それらが織りなす光と闇とが交差する街。この地で、伝道の業に派遣されることの意味が問われ、学びと共に、盛んな議論が交わされた。

主の証し人として地の果てまで

開会礼拝、来賓挨拶、主催者挨拶

2011年度宣教方策会議が3月5〜6日、鳥居坂教会を会場に、「伝道と伝道協力、共通理解と協働を求めて」の主題のもとに行われた。開会時で85名の出席があった。

を示した。主旨は次の通り。第37回教団総会期は伝道する教団の再建、伝道が大きな課題である。聖霊が降ると力を受けて、使徒たちは主の証し人として地の果てまで福音を宣べ伝えるた

め、協力して共に働いた。東日本大震災被災地域・被災教会の痛みを共有する日本基督教団の使命もまた伝道である。神の国の福音が地の果てにまで宣べ伝えられるため、被災諸教会・

牧師館の再建に伴い、伝道の共通理解と伝道協力における一致と再建が大きな課題である。そのために必要なのはただ一つ。被災の痛みのある方々と主の前に共に座ること。墓で横たわ

っている主イエスの御体があるゆえに、マクダラのマリヤともう一人のマリアは墓の前で共に座っていた。ともすれば絶望に捉えられてしまふ時に、主の前に共に座ることが許されている。そこで大いなる主のわざと出会う。罪と死の支配を打ち破り復活なさったキリスト。主との出合いの出来事を通して、死の墓は絶望から喜びの場所に変えら

れる。復活の主と出会った二人のマリアは、墓を背にして、絶望を背にして、喜びを伝えるため、急いで走って行った。私たち日本基督教団もまた、主のもとに共に座ることから、伝道する教会、伝道者派遣へと道が示されてゆく。

来賓挨拶で、在日大韓基督教団総幹事・洪性完（ホンソンワン）牧師は、同教

会で宣教協力会議を持つことの困難さについて、教会の内情を赤裸々に語った。また、日本基督教団との伝道協力への期待を次のように表わした。

主催者挨拶で、張田眞宣教委員長は、在日大韓基督教会と宣教協力を結び、それを更に良い協力となすために準備をしてゆくと述べた。

また宣教方策会議では、宣教と伝道理解の一致が難しい現実を踏まえた上で、伝道しなくてはという思いの高まりを共有することを願ひ、伝道とは何か、如何に伝道の協力ができるか、主題講演Ⅰ、Ⅱを通して、共に祈りながら進めたいと語った。

（松本のぞみ報）

「伝道とは何か」の主題で

講演Ⅰ、パネルディスカッション

1日目、午後3時30分から主題講演Ⅰが、「伝道とは何か」と題して、神代真砂実氏（東京神学大学教授）によって行われた。

講演は、「伝道」と「宣教」の言葉の定義から始まった。「伝道」とは「イエス・キリストの十字架と復活を通して起こった罪からの救いの知らせである福音を宣べ伝えること」であり、「宣教」は「伝道、および福音によって生きる者の『愛のわざ』を通してなされる『証し』から成る、福音を宣べ伝える働き」である。伝道と宣教は対立する

ものではなく、伝道に愛の業を加えた、より広い概念が宣教であると《宣教》を定義した。

続いて、「なぜ、伝道しなければならぬのか」との問いに対して、福音の普遍性が上げられた。福音は天地万物の造り主である唯一の神に由来しており、全ての人のための救いの知らせである。現在、他宗教の「神々」との並存状況にあるが、この状況は、終末における普遍的礼拝が成就する時には克服されることを受け止めて、福音を個人主義的に変質させ、伝道を妨げ

ている事態が指摘された。更には、福音の普遍性には「いつでも、どこでも、誰でも」当て嵌まるということであるから、信仰の正統性を意味し、それゆえに、教会の公同性に結びつくのであると説明した。

最後に、日本基督教団の合同教会としての性質が教会の公同性にあることに触れつつ、教会の公同性が、伝道を基礎づける福音の普遍性と結びついている以上、公同的であるとする教団が「伝道に熱くなる」ことは必然的であると主張した。

講演を受けて、神代氏を含め、算牧人牧師（伊予長浜教会）、鈴木功男氏（目白教会員）、張田眞牧師（鳥居坂教会、計4名のパネル）が立ち、ディスカッションが行われた。

算牧師は、地方において特に、信徒の生きざまが即ち伝道であることに触れ、教師が信徒を福音の喜びに生かす御言葉を語っているか問われていると述べた。また、福音の働きを受け止めるのであれば、必ずしも伝道は数に結びつかないと言張した。

鈴木氏は、日本基督教団の教勢の低下について触れつつ、教団は、カトリックと比べると、幼児洗礼者の数、求道者の数が、極端に少ないことを指摘し、信仰の継承の大切さを語った。

この点につき、神代氏は、幼児洗礼が少ない理由に、旧教派的背景、バルト神学の影響、幼児洗礼を授ける際、教会の責任を明確にしない点等を挙げた。

張田牧師は、日本の教会において福音が狭いものとして捉えられて来たこと、神・隣人との関係の回復と言われる時、関係性が個人主義的な範囲の中で捉えられる傾きがあったことを受け止めて、罪の赦しという言葉からではなく、神の

国の到来という点から福音、伝道を語る可能性を指摘した。また、宣教委員会が、話し合いのためのたたき台として用意した「神の国」という切り口から、伝道とは何かを描く伝道の素描を紹介した。伝道とは何かを語る際に多様な切り口があり、定義することが簡単ではないことを受け止めると共に、この主題と向き合い続けていかなければならないと述べた。

（嶋田恵悟報）



主題講演Ⅰ
神代真砂実講師



左から本田氏、北牧師、高橋牧師、寛牧師

宣教方策会議

「伝道協力について」のテーマで 4 人が発題
分団で自由活発な意見交換も

発題・分団

第2日目、午前には4つの発題、昼食を挟んで8つの分団での協議、午後には分団報告を含む全体協議を行なった。

発題は「伝道協力について」のテーマで宣教協力学校協議会、伝道方策検討委員会、東北教区、四国教区から各15分ずつ行なった。宣教協力学校協議会から本田栄一氏（桜美林中学高校）、東北教区、四国教区から各15分ずつ行なった。伝道協力学校協議会から本田栄一氏（桜美林中学高校）は、「伝道協力ーキリスト教学校の役割と課題」と題して、北陸学院、女子学院、そして桜美林中学高校とキリスト教学校に勤めてきた者として宣教協力について一緒に考えたいとした。まず、ユニセフ「先進

国の幸福度調査（2007年）、日本青少年研究所調査（2008年）、東京都教育委員会調査（2009年）によって、日本の子どもたちの孤独感、中高生の自己能力に対する不安、自己否定の感情が高いといった調査結果を紹介した。このような子どもたちを取り巻く状況からキリスト教学校はどのような教育を行い子どもを育てるかという課題として、「ひとりのひとりを尊重する」「教育、「命を大切に

北紀吉伝道方策検討委員長は、委員会が今総会期第5回常議員会に報告した基本提言を提示し、提言は文章化が目的ではなく、議論に終始せず伝道を推進するためのものであると語った。特に基本提言に挙げら

の確信に立つてこそ進むことを指摘した。高橋和人東北教区議長は、震災対応の協力に感謝を述べた上で、東北教区の伝道協力の実情について、特に教区機構改革、財政改革を行ってきた実績から報告した。2004年に教区は「教会を孤立させない、教会は孤立しない」ことを念頭に、謝儀保障から宣教協働に方針を転換した。単独支援から地区主体の伝道支援に移行させ、地区が申請主体となって人ではなく伝道協力活動を支援する体制に機構上、財政上大きく改革した。機構上では宣教協働委員会を設けて、教

区と地区との繋がりを宣教協働ということからバックアップする体制を整えた。また宣教協働研究所を設置し宣教協働プランの作成に当たらせてきた。また財政上、教区スリム化と集中のため委員会を削減し経費削減を行い、宣教協働会計を新たに設けた。地区再編を行い、各地区にも宣教協働のための責任額を負担することを定めた。宣教協働のプログラムとして、現在、教会合同、複数教会による牧師招聘などが進められているが、今後、震災緊急対応後の宣教協働構想が新たに求められなければならない

四国教区から寛牧師（伊予長浜教会）は、教区謝儀互助の成り立ち、伊予長浜教会における伝道協力について発題した。戦後キリスト教ブームが去った中で教区内では複数教会による伝道協力が必然となった。伝道のため牧師が安定的に御言葉を語る必要から謝儀互助制度を作り、伝道の拠点としての「小教会強化」を行い伝道圏伝道を推進してきた。伝道協力は教区、分団、地区、各個教会それぞれのレベルにて行われている。伊予長浜教会は教区から謝儀互助を受け、四国西南地区6教会の伝道協力、また大洲教会との伝

道協力を行なっている。これらの伝道協力によって各個教会が受ける利益は、自らが公同教会であることを知り、教会の使命を知ることにある。この自覚によって教会は自らの存在意義、また伝道地の広がりを知ることになるとした。

全体協議では、各分団協議を報告の上、協議を行った。分団、全体いずれの協議においても、宣教方策会議の位置付け、地方と都市部の伝道、高齢者伝道、青年伝道、伝道推進室の位置付け、震災後の被災地の伝道などが取り上げられ討論された。

（渡邊義彦報）

共に祈り、支えよう！

Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記
目標額 10 億円（国内のみ）
期 間 2011 年 7 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
振替番号 00110 - 6 - 639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
2012 年 4 月
教団救援対策本部長 石橋秀雄

キリスト教施設での「協働」と伝道

「十字の園」での実体験から

主題講演Ⅱ

主題講演Ⅱ「伝道と伝道協力」は、1日目夜、夕食休憩後の午後7時より行われた。講師は平井章氏（社会福祉法人十字の園理事長、日本キリスト教社会事業同盟総監事）。

1時間あまりの講演は、後の夫人に「クリスチャンでない人と結婚する気持ち

はないて言われたことが、教会・信仰との出会いに繋がったという、氏の結婚の逸話から始められた。そのような者が、キリスト教福祉の施設長として働き、社会事業同盟総監事として、この場に立っていることに不思議を感じる」と述べた。このことは、単に興味が深いエピソードであるにと

十字架の園の計9施設で、603人の職員が働いて、内信徒は39人、6.5%に過ぎない。しかし、毎朝始業時に



主題講演Ⅱ 平井章講師

「クリスチャンでなければ福祉は出来ない」と確信するに至り、ついに、昨年のイースター礼拝で、夫人と共に受洗したという珍しい話が紹介された。

このことは、入居者との関係についても当て嵌まる。入居者の一人が「こ

福音の始まりから、福祉は職能の3つの側面の一つであって派生的なものではないことが述べられた。(2) (5)では、十字の園がディア

福音の始まりから、福祉は職能の3つの側面の一つであって派生的なものではないことが述べられた。(2) (5)では、十字の園がディア

過去10年以上にもわたり、NCCの活動全般、特に社会問題への取り組みの姿勢、教団の分担金査定について、教団とNCCには、少なからぬ意見の不一致があった。

NCC議長に、小橋孝一氏
総幹事に、網中彰子氏

日本キリスト教協議会（NCC）第38回総会が、3月26～27日、日本聖公会聖アンデレ教会を会場に、70名の議員が出席し開催された。

冒頭から、会議の成立要件を巡って議論が紛糾するなど、波乱の幕開けであった。過去10年以上にもわたり、NCCの活動全般、特に社会問題への取り組みの姿勢、教団の分担金査定について、教団とNCCには、少なからぬ意見の不一致があった。



補教師試験、試験会場

2012年

春季教師検定試験

遣わされる者としての覚悟が問われ

2012年春季教師検定試験が2月28日～3月1日、東京会場（教団会議室4階、6階）において実施された。1日目は開会礼拝の後に学科試験、2日目と3日目は全体会の後に個人面接試験という日程であった。

今回初めて、教師検定規則改正第4条3号（36総会期常議員会で可決）に基づいて試験が実施された。従来、大学神学部を経ないで教団立および認可神学校大学院に入学し卒業予定の補教師志願者も、Aコース受験（学科試験は教憲教規および諸規則・宗教法人法の一科目、提出課題は説教一編を課す）が認められていた。しかし正教師検定受験時に基礎学力不足が露見するケースが相次ぎ、問題が指摘されていた。規則改正により、在学中に履修した学部科目を教師検定委員会が認定し、未履修科目を受験科目に加えて試験が行われることとなった。

今回の受験志願者総数は67名、内訳は補教師が57名、正教師9名、転入1名であった。補教師受験志願者のうち、Aコースは32名で、改正4条3号対象者はその内の5名であった。Bコースでの受験者は14名、Cコースでの受験者は11名であった。

学科試験の得点が合格点に少し足りなかった受験者については即不合格とはならず、判定が保留される。レポート課題が与えられ、後日その提出物によって合格の再判定がなされる。今回保留となったのは補教師志願者9名、正教師志願者2名、転入志願者1名であった。

最終合格判定確認は3月22日に行なわれた。補教師の合格者は44名、不合格者は4名と決定した。Cコース継続者は9名。また、正教師の合格者は4名、不合格者は4名、継続者は1名であった。転入志願者1名は合格となった。

教師検定試験は「主の召命にこたえて日本基督教団の宣教を担い、主の教会に仕える教師を送り出すために、教憲教規に基づき、教師検定規則に則って実施される」という筋道においてなされる（教師検定委員会基本方針）。

全体会においてこの点が東野尚志委員長によって丁寧に説明された。教師検定試験に向けての学びの姿勢の中に伝道者として「主の召命にこたえる」という確かな客観性が現れてくる。その意味を踏まえて各受験者に告げられる判定結果を謙遜に受け止めて欲しい。

なお、今期より個人面接試験と位置づけて行っている。昨年までは面接手順に若干の違いがあることも全体会で確認された。

新約神学はキリスト論的称号に対する関心の薄さを感じられた。主で自身による自己啓示である。熱心に学んで欲しい。

教会史・教理史は学習量がそのまま結果につながる傾向が強い科目。今回もそれが如実に表れた。

組織神学は、神学的に思索し論述する力の弱さを感じさせられる。教師は教義

学の基本を踏まえて、一貫して教会的に発言する責任を担う。自覚をもって準備して欲しい。

各試験問題はいずれも、その基本を整えていく中で、召命は確かなものとなっている。聖書全体が大きな救いの歴史と将来を語っている。その大文脈の中で一つ

ひとつの御言葉は新鮮に解き、語られるのを待っている。神学なしに誰も正しくなし得ない奉仕である。

その基本を整えていく中で、召命は確かなものとなっている。聖書全体が大きな救いの歴史と将来を語っている。その大文脈の中で一つ

ひとつの御言葉は新鮮に解き、語られるのを待っている。神学なしに誰も正しくなし得ない奉仕である。

その基本を整えていく中で、召命は確かなものとなっている。聖書全体が大きな救いの歴史と将来を語っている。その大文脈の中で一つ

ひとつの御言葉は新鮮に解き、語られるのを待っている。神学なしに誰も正しくなし得ない奉仕である。

その基本を整えていく中で、召命は確かなものとなっている。聖書全体が大きな救いの歴史と将来を語っている。その大文脈の中で一つ

個人面接を試験と位置づけて



面接前の全体会

消息

北久保勝也氏（隠退教師）



12年3月14日逝去、87歳。東京都に生まれる。'53年日本基督教神学専門学校を卒業、同年京都丸太町教会に赴任、和戸教会、熊谷教会、長崎古町教会を経て95年まで洗足教会を牧会した。遺族は娘・巖崎悦子さん。

マンガ

アニメ聖書展 in 東京

▽日時 2012年5月12日（土）10時～17時
▽会場 教文館・ウエンライトホール
▽入場料 大人1,000円 中学生以下500円
▽目的 聖書に関係するマンガ、絵本、アニメビデオを通し青少年に福音を伝える。

▽内容 マンガ聖書等の展示・ミニライブ・パネルディスカッション・メッセージ
▽詳細 実行委員・内野正（047134911530、日本基督教団清水水会会員）まで。

お詫び・訂正
新報4745号2面、P.C.Tと教団との協議会記事「中、「石蓮城議長」を「石蓮城議長」にお詫びして訂正します。

2012 年春季・補教師検定試験問題

教憲教規および諸規則・宗教法人法（60分）
（A、B、CⅢ）

次の2題に答えてください。

- 「教憲教規および諸規則」が示す教団の教師とは何であるかを述べてください。
- あなたが4月から赴任された教会に於いて、『教会規則』を変更することになりました。そのために為さなければならない必要な手続きを「教憲教規および諸規則」と「宗教法人法」の規定に沿って、その発議から完了に至るまでのすべての手続きを順序正しく（＝時間系列に沿って）述べてください。

旧約聖書神学（60分）（B、CⅢ）

次の2題に答えてください。

- 旧約聖書におけるキリスト証言について、述べてください。
- エレミヤ書の内容と思想について、述べてください。

新約聖書神学（60分）（B、CⅢ）

次の2題に答えてください。

- 共観福音書におけるキリスト論的称号を2つ以上挙げ、テキストを示しつつ論じてください。
- 次の2題のうちから1題を選んで答えてください。
①パウロ書簡におけるイスラエルの救いについて
②パウロ書簡における「自由」について

講評

春季の試験では、正教師は再受験者のみで、神学校を卒業・修了した補教師の受験者が多くなります。

それだけに、面接試験において、伝道者として召され、遣わされる者としての覚悟を厳しく問う場面が、多々ありました。

学科の試験はできていても、神の召しについて、また宣べ伝えるべき福音の内容について、言葉が整わない受験者もありました。改めて、神に召された者として立てられ、遣わされ

ていく事実を、厳粛に受けとめていただきたいと思えます。

補教師として教会・学校に仕える日々の営みが、そのまま正教師試験受験の準備になります。御言葉を説くことに全力を注ぎ、説教者としてのゆみなく成長して行かれることを望みます。

また神の民の歴史を振り返りながら、私たちが生きる今という時を神から捉え返していくセンスを磨いてください。祝福を祈ります。

第37総会期教師検定委員長 東野尚志

荒野声

▼同じ町内に住む婦人から突然の電話があり、葬儀を依頼された。この人とは全く面識がないが、会って子細を聞いた。80才を超える夫婦間で、日頃話していたと言う。「その日が来たら、あの教会で葬式をしてもらおうね」。その家から、教会の屋根の十字架が見える。かつては、礼拝前の鐘の音も聞けた。▼夫婦は礼拝に出たことは一度もない。それでも、教会に憧れか、少なくとも、好感を持っていたのだ。長男が中学までは教会学校に出席していた。また、高校まで近くのキリスト教主義学校に通っていた▼受難週の最中、一年中で一番忙しい時だが、日程を調整して何とかやりくり出来そう。それも御心かと、受難日の葬儀を引き受けた。何しろご近所だ。当人にとっては人生の最大事、これを断るの印象度に大きな差が出る。ご近所だから、近所の人々の列席もあるかも知れない。▼ところで、礼拝前の鐘の音は、10年ほど前に止めた。近所の匿名の人から、何度かうるさいと電話で抗議されたからだ。本物の鐘ではなく、テープの音だったので、トラブルを避けるために廃止した。▼昔の英国などでは、教会の鐘の音が届く範囲が一つの教区だったと聞いた。福音の音が広く届く、真の開かれた教会でありたいと願う。

石巻エマオへ専従の宣教師着任

第 3 回宣教師人事委員会

第37総会期第3回宣教師人事委員会が、3月14日（水）、教団会議室において開催された。

まず、宣教師支援委員会が、今年7月に花巻に於いて宣教師会議を計画していること、台湾協約委員会（台湾基督長老教会（PCT）と日本基督教団の代表者が集い、第13回協議会を2月に開催したこと等、当委員会と関係する諸委員会の活動報告がなされた。

新たな宣教師の活動として、米国合同メソジスト教会（UMC）からホブ・フジムラ氏が石巻エマオ（東

日本大震災被災者救援センター）の専従者として派遣され、4ヶ月の活動予定で2月14日（火）に着任したことの報告がなされた。

実り多い救援活動がなされるよう祈った。

年度末となり、現在日本で活動している宣教師の、任期延長、任期継続、そして新たな宣教師就任（鄭芝永教師、神奈川教区寿地区センター）に関して協議し、それぞれ承認した。

また、田中弘志当委員会委員が、宣教協力学校協議会の運営委員長を退任することが報告され、これに伴



年度末、人事往来が忙しく

2012 年教区総会日程

教区	会 期	会 場	問安使
北 海	4月30日(月)10:00 5月1日(火)15:30	札幌北光教会	雲然俊美
奥 羽	5月22日(火)12:30 ～23日(水)15:45	奥羽キリスト教センター	雲然俊美
東 北	5月29日(火)13:00 ～30日(水)15:30	仙台青葉荘教会	岡本知之
関 東	5月29日(火)10:30 ～30日(水)16:00	大宮ソニックシティー小ホール	石橋秀雄
東 京	5月29日(火)10:00 ～30日(水)12:30	東京山手教会	雲然俊美
西東京	5月27日(日)15:30 ～28日(月)17:00	阿佐ヶ谷教会	内藤留幸
神奈川	6月23日(土)10:00 ～16:00	清水ヶ丘教会	岡本知之
東 海	5月22日(火)13:30 ～23日(水)15:00	熱海後楽園ホテル	岡本知之
中 部	5月22日(火)13:00 ～23日(水)14:00	名古屋中央教会	石橋秀雄
京 都	5月3日(木)10:00 ～4日(金)15:00	京都丸太町教会	石橋秀雄
大 阪	5月3日(木)13:00 ～4日(金)17:00	大阪女学院ホールチャペル	内藤留幸
兵 庫	5月20日(日)16:00 ～21日(月)18:00	神戸栄光教会	岡本知之
東中国	5月28日(月)12:00 ～29日(火)16:00	米子教会	内藤留幸
西中国	5月7日(月)13:30 ～8日(火)16:00	カリエンテ山口	雲然俊美
四 国	4月30日(月)13:00 5月1日(火)15:00	高知教会	石橋秀雄
九 州	5月3日(木)9:00 ～4日(金)15:00	九州キリスト教会館	岡本知之
沖 縄	5月27日(日)16:30 ～28日(月)17:30	沖縄キリスト教センター	石橋秀雄



建築資金貸付け原資確保が大きな課題に

東の各教区から、被災教会の再建・復興計画および支援活動状況の報告がなされた。被災教会の修復・再建に関しては、修繕工事（応急処置）を行なっている教会、土地取得・会堂建築の準備を進めている教会、教区からの支援（資金立替え）を受けて修復・復旧工事を終えた教会などの報告がなされた。

その他、「東日本大震災救援対策本部ニュース」第2号発行「311折りのしおり」作成・発送、「被災3教区幼児教育（幼児施設）担当者会」開催等が報告された。

審議事項においては、教会会計監査からの提案（救援対策本部の「組織図」の作成、救援対策本部予算案

2月14日～15日に教団会議室にて第37総会期「障がい」を考える小委員会第3回委員会が開かれた。

第一議案は、「牧会者とその家族のメンタルケアの問題」について前回に引き続き協議し、その重要性を再確認した。

そのため「牧会者とその

家族の相談室」の設置を3月開催の宣教委員会に提案し、常議員会に要望することとした。この相談室は、牧師、精神科医、臨床心理士、相談員などの専門チームによるプロジェクトを考

第二議案は、「障がいを考える全国交流会」についてである。2012年7月3日（火）～4日（水）に、戸山サンライズにて「東日本大震災を通して障がいを考える」というテーマで開催する。今回は被災地にあ

第三議案は、加藤幹夫委員長の発題を通して「軽度発達障がい」についての学びの時を持った。

軽度発達障がい者に対するケアはとも難しく感じたが、単なるノウハウだけではなく、決して投げ出さずに関わり続けることの重要性が話し合われた。内容は本委員会のホームページにアップする。

（井上隆昌報）

ユースミッション2012 参加者募集

（日本基督教団教育委員会主催）

《台湾基督長老教会の青年と日本基督教団の青年との交流会》

- ★テーマ 「キリストと教会に仕える」
- ★日 時 2012年8月18日～25日
- ★場 所 主な場所は、関西・軽井沢・東京
- ★応募条件
 - ①募集人数7名
 - ☆全日程2名 ☆関西～軽井沢5名（18日～23日）
 - ☆軽井沢～東京5名（21日～25日）
 - ②18歳以上で教会の礼拝に出席している青年（求道者可）
 - ③所属教会の牧師の推薦状のある方
- ★参加費 1万円（交通費は全額補助）
- ★募集締め切り 2012年5月25日（『信徒の友』掲載の公告には5月18日となっていますが、25日といたします）。申し込み希望者は日本基督教団教育委員会まで、封書で牧師の推薦状を添えて申し込んでください。
- ★宛 先 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
- ★連絡先 TEL 03-3202-0544（教育委員会）
Mail Address nomura-sec@uccj.org または kusafuka@uccj.org

被災教会再建・復興計画報告に

教団救援対策本部第9回会議

2月27日、教団会議室にて、教団救援対策本部第9回会議を開催した。

2月24日現在での国内募金総額は2億6,996万3,762円、海外からの献金総額は2億968万1,305円であることが報告

された後、海外献金プロジェクト小委員会および救援対策室（11号室）から、仙台エマオ・石巻エマオの活動状況の報告、第1回こひつじキャンプの報告等がなされた。

続いて、奥羽・東北・関

東の各教区から、被災教会の再建・復興計画および支援活動状況の報告がなされた。被災教会の修復・再建に関しては、修繕工事（応急処置）を行なっている教会、土地取得・会堂建築の準備を進めている教会、教区からの支援（資金立替え）を受けて修復・復旧工事を終えた教会などの報告がなされた。

その他、「東日本大震災救援対策本部ニュース」第2号発行「311折りのしおり」作成・発送、「被災3教区幼児教育（幼児施設）担当者会」開催等が報告された。

審議事項においては、教会会計監査からの提案（救援対策本部の「組織図」の作成等）を受けて協議した。ほか、「教会堂及び牧師館建築資金貸付け要綱」について協議し、原資の確保や貸付け期間等に関して今後継続して検討することとした。

また、釜石市社会福祉協議会との連携による「お茶っこサロン」の開催（遠野自殺防止センターの活動を受け「ハートフル遠野UCCJ」の名称で実施）や、各教区議長からの申請をもとにした被災学生納付金減免補助、第2回短期保養プログラム（こひつじキャンプ）の開催について、それぞれ説明を受けた後に承認

した。

さらに、「被災教会等再建・復興支援委員会」の設置について検討したほか、東北大学寄附講座への支援（1千万円の支援を3年間行つ）を決定した。

なお、北海・奥羽・東北教区による親子短期保養プログラムと、東北教区に放射能問題支援対策室を設置することにについては継続し

て検討することとした。

以上のほか、笹屋敷エマオ開設、被災3教区震災関係実務担当者会開催（3月30日）等の活動を確認した。また、田中弘志委員からの宣教協力学校協議会の運営委員長退任に伴う委員辞任申し出を承認した。

今回は、3月23日、教団会議室にて開催とした。

（雲然俊美報）

第3回「障がい」を考える全国交流会

- ◎日時 7月3日14時～4日11時半
- ◎テーマ 「東日本大震災を通して障がいを考える」
- ◎場所 東京・戸山サンライズ
- ◎発題 北村嘉勝さん（元社会福祉法人カナンの園職員）
大林健太郎さん（シャローム石巻）
- ◎分団・全体会
- ◎費用 教区推薦（交通費、宿泊費教団負担）
自主参加（実費自己負担）
- ◎申込・問い合わせ 教団「障がい」を考える小委員会（Tel.03-3202-0544）